

平成 22 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19520422
研究課題名（和文） 大規模コーパスを用いたメタファーの創造的概念形成メカニズムに関する研究
研究課題名（英文） A Large Corpus-Assisted Study of Metaphor with Special Reference to Its Creative Function and Conceptualization
研究代表者 大森 文子 (Omori Ayako)
大阪大学 大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：70213866

研究代表者の専門分野：認知言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：概念メタファー、感情、コーパス、イディオム、聖書、視点

1. 研究計画の概要

メタファーによる外界理解のメカニズムの究明は、認知言語学の主要な研究テーマの一つとして位置づけられる。本研究課題は、思考を司る概念メタファー (conceptual metaphor) を反映する言語データを、大規模電子コーパスから網羅的に収集、分析することにより、抽象的概念領域を具体的概念領域からのメタファー写像により理解する人間の創造的概念形成のメカニズムの解明を目指す。

2. 研究の進捗状況

現代英語 1 億語の大型コーパス British National Corpus を主たる調査対象とし、新聞コーパス The Times Digital Archive 1785-1985 や英訳聖書コーパス The Bible in English (Chadwyck-Healey) を援用し研究した。根源領域<自然現象>、目標領域<感情>に由来する 2 つの名詞句が前置詞 of で結びつく慣用メタファー表現例を中心に収集、分析し、「感情カテゴリーにおけるプロトタイプ性を<水>という概念領域の観点から特徴づけることができる」、「感情を根源領域の欠如という観点から特徴づけることができる」など、従来の認知言語学研究にない新たな研究成果を得た。この成果は日本認知言語学会でも発表した。

さらに、認知言語学において感情メタファーに関する研究の第一人者として知られる Zoltán Kövecses の、最も強力な感情メタファーと感情のプロトタイプに関する主張を批判し、感情を表すメタファーは<自然現象>をその根源領域とする頻度が最も高く、その中でも海や河川などの<大量の動く

水>がメタファーに用いられるケースが最も多いことを示し、新たな認知モデルを提示した。本研究成果は世界の著名な研究者の最新成果が掲載される国際的メタファー研究総合誌 *Metaphor and Symbol* に掲載された。

また、研究分担者と数年来続けている動物メタファーに関する共同研究の一環として、動物寓意詩を認知的に分析するとともに、英語イディオムにおける動物比喩義に関する体系的分析を行い、特定の感情の喩えとして用いられる動物用語の傾向から<動物>領域と<感情>領域との間の写像の構造性を探究した。さらに、聖書由来の<善>や<悪>の概念を目標領域とし、<天体>や<動物>など自然界の事象を根源領域とするメタファー写像がサタンサタンの墮落に関する物語の理解に果たす役割について、ミルトンの叙事詩テキストを対象に考察した。ここでも、自然界の事象に関する文化的理解に基づく「視点の移動」という観点からメタファー写像を特徴づけるという、新たなタイプの研究成果が得られた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

英語の用例収集、分析にかなりの時間を要し、そのうえ公布された補助金の額の関係上、当初の計画に含めていた日本語のデータ収集・分析は十分に行えていないが、英語の感情メタファーについては、これまでの認知言語学研究の主たる方法論である研究者の内省に基づく考察ではなく、コーパス検索により網羅的に収集された用例を考察対象とすることにより、これまでになく新たな発見ができ、認知的メタファー論の精密化に貢献す

ることができた。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究成果をふまえ、個別感情に関するメタファーについてさらに用例を収集、分析し、とくに個別感情の類義関係や対義関係を反映するメタファー写像に着目しながら、自然界に関する理解を通して人間の感情を表現するメタファーの仕組の包括的な究明を試みる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- (1) 大森文子「メタファーに見る感情のプロトタイプ特性」『英語フィロロジーとコーパス研究：今井光規教授古希記念論文集』渡部眞一郎、細谷行輝編。松柏社。2009. pp. 489-501. 査読無
- (2) 大森文子「イディオムと詩的表現に見られる動物を媒体とした感情メタファー 共同研究 英語動物名のメタファー (11)」『言語の歴史的变化と認知の枠組み 言語文化共同研究プロジェクト2008』2009. pp. 23-36. 査読無
- (3) Ayako Omori, “Emotion as a Huge Mass of Moving Water,” *Metaphor and Symbol*, vol.23, no.2. 2008. pp. 130-146. 査読有
- (4) 大森文子「感情が形づくる心の風景：“a flood of joy”型メタファー表現に見る写像の特性」『日本認知言語学会論文集』第8巻。日本認知言語学会。2008. pp. 285-294. 査読無
- (5) 大森文子「メタファーのダイナミクスと視点：Paradise Lost の叙事詩的比喩をめぐって」『ことばと視点』2007. pp. 5-19. 英宝社。査読無

[学会発表] (計1件)

大森文子「感情が形づくる心の風景：“a flood of joy”型メタファー表現に見る写像の特性」日本認知言語学会第8回大会(於：成蹊大学)2007年9月23日。